読書

月影舞月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

読書

【コード】

N5989Y

【作者名】

月影舞月

【あらすじ】

テーマ：読書であります。

「ねえ、トルストイって知ってる？」

普段、僕とは口もきかない妹が、急にそんなことを尋ねてきた。文学なんて今まで興味も示さなかったのに、突然なんだと僕は少し驚いた。しかし思春期真っ盛りの女の子なんだから趣味嗜好がころころ変わったとしてもおかしくない。そう思うと自然と笑顔がこぼれた。

「何よ、笑ってごまかすつもり？」

「いや、そんなつもりはないさ。……ロシアの文豪だろ？ 日本には高度経済成長期頃に入ってきて有名になったね。僕も親父に薦められて読んだことがあるよ」

「ふうん……」

中学二年生の妹はそう言って独り合点した。両手で抱き込むようにして持っていた枕に顎をうずめる姿は可愛らしかった。僕は提出締め切りの迫った論文に向きあうと、原稿用紙にペンを走らせた。妹ははじめ僕を見ていたようだが、興味をなくしたのか、ベッドの上からのいて部屋から出てしまった。僕にはそれが少なさみしかった。

数年ぶりの妹との会話がすぐに終わってしまったことを寂しがつているのだろうか、それとも、別の感情で僕は寂しいと思ったのだろうか。

「解らないな、なぜ僕はこんなことを考えたのだろうか」

なぜか、うつすらとした虚無感に包まれた。心理学者になっているというのに、僕は自分の感情すら理解しきれていなかった。それが僕の他人との違いを露呈しているようで、しかし他人もこうなのだろうかと考えだすと思いの迷路にはまってしまう。

己について理解しきれない人間が、他人を知ろうだなんてなんて烏滸おしがましいのだろうか。僕にはそれすら解らなかった。

数分経った頃だろうか、誰かが扉をノックした。

「どうぞ」

「ねえ、お兄ちゃんの呼んだ『トルストイ』って、これ？」

部屋に入ってきたのは妹だった。彼女が小さな手に持っていたのは「イワン・イリツチの死」だった。年季が入っているにもかかわらず、そのカバーは新品のように白かった。それがあまりにも懐かしくて、思わず手にとっていた。

「いやあ、懐かしいね。大学の頃を思い出すよ。そうだ、あの頃は芥川にもはまってたな。対照的な描写の仕方、物語の構成が面白かったなあ……」

そこまで言って僕は我に返り、おどおどとしていた妹に、なかに入るよう促した。彼女がベッドの上に座り、僕は回転椅子に座った。「確かにこの本だよ。値段も安かったし、書店で買ったんだ。……

どうだい、読む？」

「いいの？」

妹が目を輝かして、身を乗り出した。初めて見る姿に、僕は「妹もこんな顔ができるんだな」と、少し嬉しかった。

「うん。あ、でも僕も読みたいから、早めに返してね」

「うん、解ったよお兄ちゃん！ じゃあ、借りてくね？」

「はいはい、あ、芥川も興味があったら読んでみてね」

「はい」

そう言つと、彼女は僕のベッドの上で寝転がって本を読み始めた。僕に気を許してくれているのだろうと思うと、少し嬉しかった。

僕は論文に向きあつと、続きを書き始めた。

(後書き)

嘘のようなあとがき(今回は脚色なしでございます)

あれだけ仲のよかった図書委員の娘と、なぜだか知らないが今では口もきいていない。僕が何かしただろうかと考えたこともあるが、答えが出るはずもなく堂々巡り。仕方なく僕は放置することにした。するとどうだろう、今まで離れたことのなかった女の子と話すことができはじめたじゃないか、俺！ なんか嬉しい。けど恋愛対象にはいつているわけじゃないから少し寂しい。

最近の僕の周囲もこの国も世界もめまぐるしく動き回っている。

案外、退屈だ。

P.S.

長い間更新も音沙汰もなくすいませんでした。今もテスト期間中でございます(笑)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5989y/>

読書

2011年11月18日06時50分発行